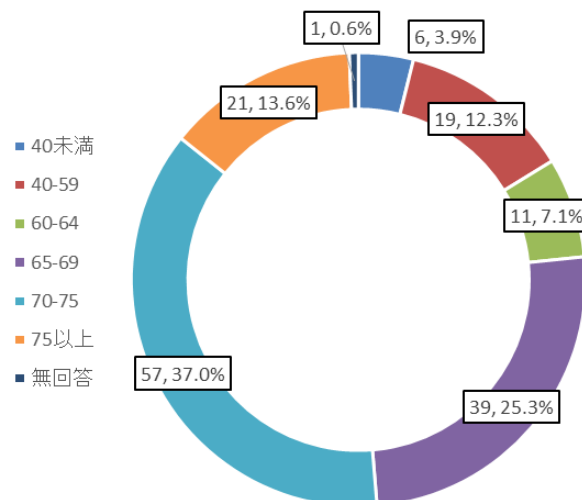
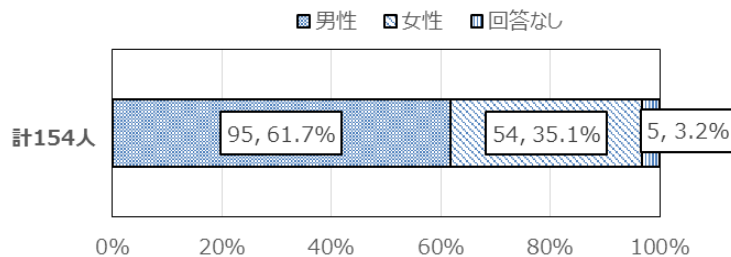


災害時に生きる！地域支え合いのチカラ 参加者アンケート

(1) 性別・年齢を教えてください。(あてはまるもの、それぞれに○)

1. 男性	1. 40歳未満	2. 40～59歳	3. 60～64歳
2. 女性	4. 65～69歳	5. 70～75歳	6. 75歳以上



(2) 地域とのかかわり方について。(あてはまるものに○・複数選択)

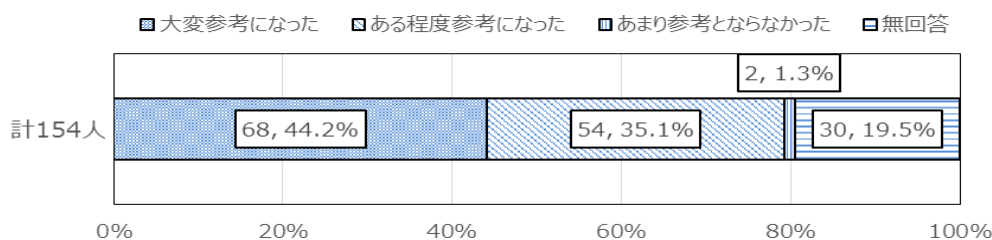
1. 自治会長	2. 自治会防災担当または防災リーダー	3. その他自治会関係者
4. 民生委員	5. 医療及び介護関係者	6. 一般市民
7. その他 ()		

【2】地域との関わり方	男性	女性	無回答	合計
自治会長	25	3	0	28
自治会防災担当または防災リーダー	27	3	2	32
その他自治会関係者	13	11	0	24
民生委員	11	22	1	34
医療及び介護関係者	7	4	0	11
一般市民	12	15	2	29
その他	6	4	0	10

(その他の回答) ろう者、手話サークル防災担当、手話サークル会員、地域包括支援センター、行政(保健所)、市職員、地域支え合いリーダー、自治会・福祉担当

(3) 今回の内容は、満足のいくものでしたか(1つに○)

1. 大変参考になった	2. ある程度参考になった	3. あまり参考とならなかった
-------------	---------------	-----------------

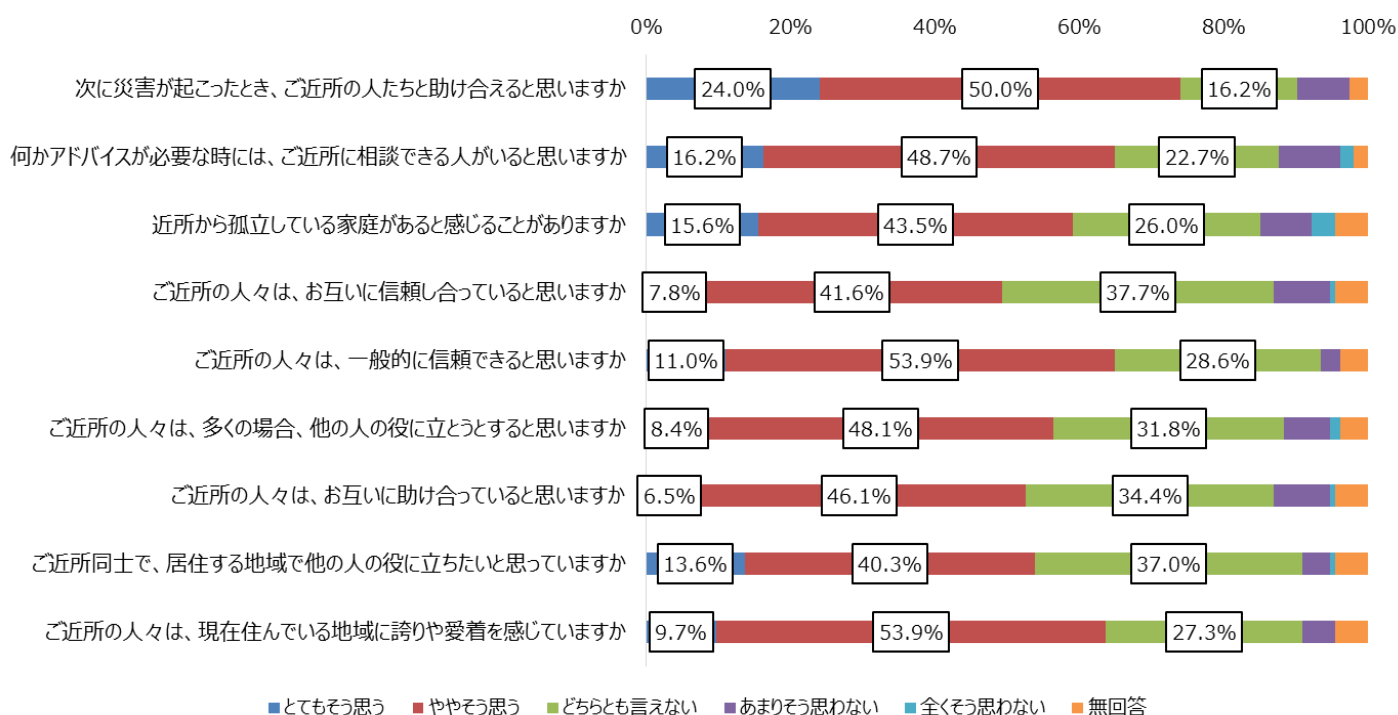


(4) 今後、防災・支え合い活動に関して知りたい内容がありますか。(あてはまるものに○)

1. 女性や子どものための防災セミナー	2. 防災資機材や AED 取扱い訓練
3. 避難所の運営方法	4. 災害時の医療や福祉サービス
5. 地域での見守り・支え合いの取組み事例	
6. その他 ()	

今後の内容		女性や子どものための防災セミナー	防災資機材や AED 取扱い訓練	避難所の運営方法	災害時の医療や福祉サービス	地域での見守り・支え合いの取組み事例
全件		34	22	47	65	73
内訳	自治会長	8	4	7	8	16
	自治会防災担当または防災リーダー	7	1	11	9	13
	その他自治会関係者	2	4	6	11	0
	民生委員	9	3	7	0	35
	医療及び介護関係者	1	7	0	28	14
	一般市民	7	0	21	16	11

(5) お住まいの地域の住民同士の支え合いについて、次の1から10の項目に対してどのように感じていますか。(1から5のうち、あてはまるもの1つに○)



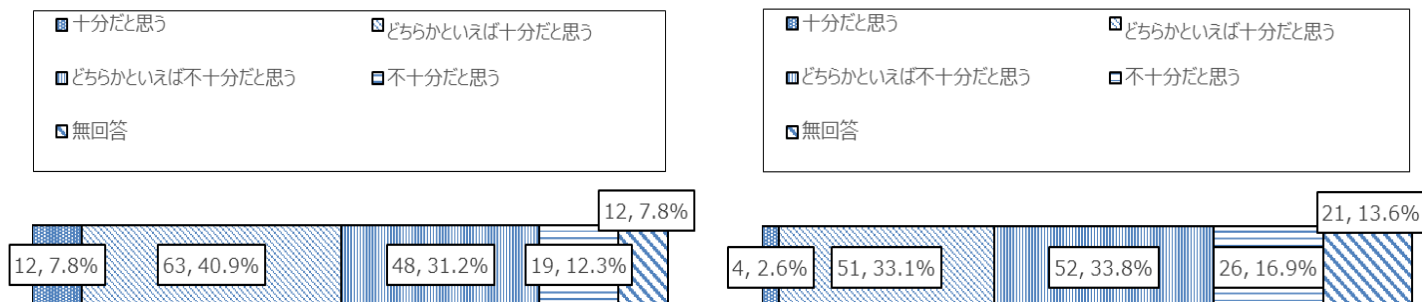
(6) 地震などの災害に対する備えが十分だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

お宅・自分の家では、

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 十分だと思う | 2. どちらかといえば十分だと思う |
| 3. どちらかといえば不十分だと思う | 4. 不十分だと思う |

地域・自治会では、

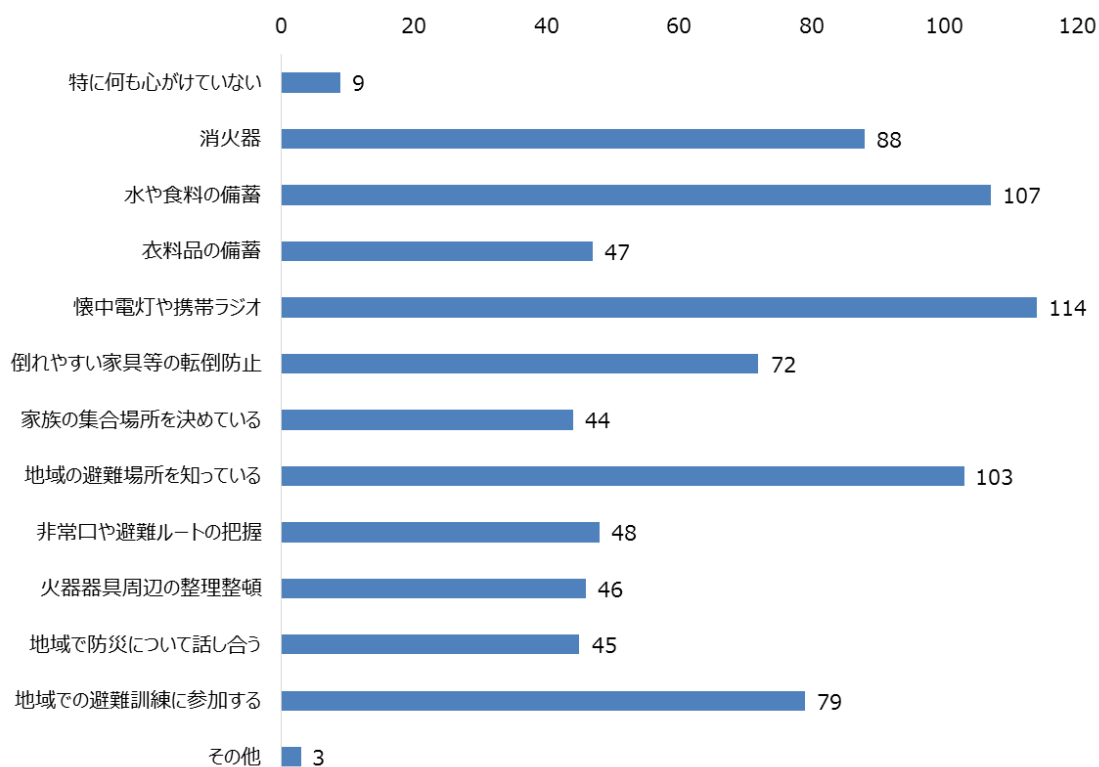
- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 十分だと思う | 2. どちらかといえば十分だと思う |
| 3. どちらかといえば不十分だと思う | 4. 不十分だと思う |



(7) あなたのお宅では、防災や支え合い活動に関する取組を行っていますか。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 特に何も心がけていない | 7. 家族の集合場所を決めている |
| 2. 消火器 | 8. 地域の避難場所を知っている |
| 3. 水や食料の備蓄 | 9. 非常口や避難ルートの把握 |
| 4. 衣料品の備蓄 | 10. 火器器具周辺の整理整頓 |
| 5. 懐中電灯や携帯ラジオ | 11. 地域で防災について話し合う |
| 6. 倒れやすい家具等の転倒防止 | 12. 地域での避難訓練に参加する |



(8) 防災の取組み、支え合い活動などについて、課題、ご意見などご自由にお書きください。

初動時の全員の動きについて話し合いを始めたばかりです。高齢者の確認、要介護者宅の家の確認が済んでいます。
支え合い活動への参加(サロン等)に声がけしても足を運んでいただけない。
流山市は大きな地震が起きた場合、一番大きな被害は津波ではなく、倒れる家屋と火災である。この点では、家で気をつける事、自治会単位でどのような事が予防、減災に結び付けるのかが大事です。行政と自治会を中心にした具体的・実践的な話し合いが重要です。
向小金の住民です。災害発生時の避難所は向小金小学校ですが、認知症患者や高齢者が迷子になり、光が丘や他の行政区分で迷子になり支援されることが想定されます。行政間の連携が不安です。具体的な取組みについてご教示ください。
家に介護者がいるのでいざという時どうしようか考え今日参加した。要援護者名簿に登録をどうしようか迷っていたが積極的に活用しようと考えが変わった。近隣の適度なかかわり合い方を考えさせられた。
抽象的な話で終始し、しかも既習であまり参考とならなかった。もっと具体的な実践例を多く紹介し、問題点、課題を示してほしい。避難所の設定のノウハウなどを知りたい。急務であるはずなので切実感が欠けているのでは。
地域の避難場所は学校だが、本当に大きな地震の時に住民皆が過ごせるか不安です。
実際、大地震が来た場合、普段の取組み支援名簿を作っている時にどれ位活用・活動できるのか、不安が残ります。まず自分の命、家族の安否が先立つなか、地域の高齢者の方々を支えていく自信がありません。
ハンディタイプの防災及び応急措置等を記入した冊子を配布すべき。サバイバルマニュアルの配布。
公私とも不十分である。
現在、あまり必要性は感じていないが、いずれ地域での支え合い・助け合いが必要と思います。
本日は大変参考になりました。ありがとうございました。
毎月1度、被災時の対応会議を実施しているが参加者が少ない。
防災対策として要援護者の支援対策を確立している。防災訓練も年1回実施している。全体的に若い人たちの参加が少ないので課題だと思う。
市民に体制などを徹底してもらいたい(広報が届かない家庭が最近多い)新聞をとっていない家が大きく増えていること(スマホなどの影響)
災害のために名簿作成や支え合い活動を充実させるのではなく、日常の生活の充実を図ると災害時にも生かせるといった視点が良かった。
聴覚障害者が自治会に入った時に情報保障ができるのか。
地域の取組みについても、地域の環境含むいろいろな地域がありますので同じ様に進めることが出来ない。地域の課題をしたうえで進めたい
出来ること、出来ないことを自分だけでなく本当に一部一部の人の協力が大事だと思います。
地域の避難所等は、日ごろ通り道ということもあって確認でき、家族とも連絡を取りながら避難できと思っていますが、できればご近所の方にもう少し密に災害時の対応について意見等お伺いできればと思っています。
日頃から近所の声掛けをさらに強化し助け合う努力をしたいと感じる。こういう講座をやっていただきありがたいです。災害はいつ起こるかわからないので。
自助・共助・公助のバランスが重要と思います。

支え合い活動と防災の取組みの協力関係がまだ十分でない。今後の課題か？
防災について ①自主防災会では地震災害時は在宅避難(集合住宅)を基本として、敷地内で共助活動の拠点を設けることを計画している。 ②この場合、市などの公助活動が動き始めたときに、市の対策本部は、当方の拠点を認識していない場合が懸念される。→市の防災取組情報として、各地域の拠点を予め登録しておくなど必要ではないか。 支え合いについて ・支援を必要とする人のうち、自分で(デイサービスや介護事業者等々)支援を受ける処置をしている人は、支援の手を差し伸べる対象から除外してゆくのか。包括支援センターや民生委員の実際の活動・具体例を知りたい。イメージが形成できていない。 ・防災弱者へのケアと自分のセルフケアと両立 ・実際に起こった場合の公共機関との連携 ・対象者の状況が様々で画一的統一的な取組がなかなか出来ず、今後の課題である。 他人事と考えず、皆が我が事のように受け止め、活動する取組みが出来る事が一番と考えています。特に当市では水の心配がないと思っているのと、大きな地震もない、もしあってもそれは日本全国に被害があり、最後まで生きのびられると思う住民がほとんどで、深刻さを感じていない地域住民が多いと思われる。 当自治会では、リーダーを中心に毎月集まって活動しているが、高齢化(メンバー)している。若手のメンバーが思うように参加してもらえないのが悩み。流山市からの補助金交付は有難く思っています。これからも宜しくご協力ください。 1.市の具体的な取組み 2.役員の交付は年度末、講習は6月から10月に実施してほしい。 ・三輪野山にある介護施設に勤務しています。隣近所とは、少し交流があるのですが、自治会との関係は弱いと感じています。防災など、いざという時の連携など、施設としての課題です。 ・市内でも支え合い活動の協定を結んでいる自治会と、結んでいない自治会があるとのことですが、地域差もあるとは感じますが、ある程度強制的に市から自治会へ協定を結ぶような働きかけをしてもよいのではと感じます。→まだ、防災に関して積極的でない自治会も活動を始める事につながる。 普段の付き合いによる人間関係があまりできていないように思う。昔は必要に迫られて協同活動が地域にあったが今は皆どこも便利になってしまった為、その必要が全くなくなってしまった。そこで現代では、あえて集まるような事柄を作らねばならなくなっている。地域の人が集まってできるような取り組みをしなければならない。それらをもよおしてくれるような人が必要である。 自主防災組織で活動しているが今日の講演を聞いて、もっと身近で出来る事に取り組む必要があると感じた。 この様な講習会をもっと開催してほしい。社協・民生委員の参加が少ない、PR方法が必要か？ 福祉避難所について流山市は？ 各住民の防災に関しての関心を高める活動が一番である。 町会での防災訓練をしたことがないので不安。若い人が無関心なのでどう取り組むか方法はないか。市民に防災に興味を持つようなPRをいろいろやってほしい。 安否確認カードの作成配布検討中ですが、内容をしぼるのに悩んでいます。個人情報保護法との絡みもあるので検討していくつもりです。

自治会内各戸の人員構成を把握して被災者の有無を確認するマニュアルの作成、個人情報の保護等の配慮方法を考える必要性の検討
とにかく一步一步、前に進めることが大切。シミュレーションの実施。マニュアルが出来たら”もう大丈夫”という風潮がある。
大変良いお話でした。機会があれば、又、お聞きしたいと思います。
自治体の組織が大きすぎて身近に感じない(江戸川台東)。丁目ごとに分けるとかでもっと見える自治体にしてほしい。
自治会の活動では、防災マニュアル作成等も必要だが近助が一番必要と感じています。住民の仲良くが大切と考えます。
講師の変更で少し不安に思ったが、はじめから引き込まれる内容で大変満足しました。 自治会への告知はチラシのみ、かつ社会福祉関係の内容に思っていたが、このような防災につながる内容と知っていれば、他にも参加を望まれる防災担当の方々にも知らせることができた。 ささえあいと防災が密接につながっていることをとても勉強することが出来ました。 自治会に持ち帰り共有したいと思います。
自治会の会合で参考にしたいと思う。
当地区では両方とも取り組んでいる。むしろ市の積極的な指導をのぞむ。今日の高橋先生の話は具体的、現実的でよかった。むしろ市の考え方を住民に具体的に説明してほしい。地域が勝手に悩みながらやっているようでは効率的でない。